地 域 再 生 計 画

１　地域再生計画の名称

外国人にも愛される観光立町「栄町」づくりプロジェクト

２　地域再生計画の作成主体の名称

千葉県印旛郡栄町

３　地域再生計画の区域

千葉県印旛郡栄町の全域

４　地域再生計画の目標

４－１　地域の現状

栄町は、成田空港から車で約 20 分の距離にあり、町内には外国人旅行者が再訪日したい施設県内ベスト３に挙げられている「県立房総のむら」がある。「県立房総のむら」には、広大な敷地に江戸時代の町並みや武家屋敷などが再現されており、日本の和を体験できる県内唯一の体験博物館となっている。

また、「県立房総のむら」の隣に「コスプレの館」が平成 27 年にオープンした。コスプレは、参加型エンターテイメントとして文化的にも自立しており、コスプレ文化の認知度は海外においても高くなっていることから、「房総のむら」を訪れる観光客をターゲットとした和装コスプレの体験メニューを提供し、好評を博している。

さらに、本町は、利根川をはじめとする豊かな水辺環境や 1300 年を超える歴史を有する龍角寺など先人から受け継ぐ歴史、町指定文化財の獅子舞等の伝統文化など外国人にも誇れる貴重な資源を擁している。

加えて、本町の特産品であるどら黒豆（黒大豆）を使った生カステラ、ソフトクリーム、味噌、きな粉、甘納豆などの加工品とともに米や乳製品の加工品なども開発・商品化され、日本人観光客だけなく、外国人観光客からも好評を得ており、栄町の特産品をブランド化する土壌が確立されつつある。

４－２　地域の課題

成田空港を利用する外国人旅行者は、ＬＣＣ専用ターミナルである第３ターミナルの開設やＬＣＣの新規就航路線の開業などにより年々増加している一方、当町を訪れる外国人観光客も、平成 25 年から平成 27 年までは横ばいであったが、平成 27 年にコスプレの館がオープンした他、外国人観光客の誘客事業の取組みにより、平成 28 年から増加傾向となっているが「県立房総のむら」周辺のみの滞在に留まり、町内の飲食店や商店街への周遊ルートが確立されておらず、経済波及効果が低い状況であることから、成田空港から近いことや外国人にも誇れる資源や環境の優位性を活かしきれていない。

また、当町の特産品である黒大豆を使った加工品などの地場産品の販売額については、地域住民の購買額は増加傾向にあるが、国内観光客をはじめ外国人観光客などの購買については伸び悩んでいる。

更に、外国人観光客が訪れる際に、施設の案内やイベントにおけるおもてなしができる外国語の通訳ボランティアが不足しており、外国人観光客を集客できる環境が整備されていない。

４－３　目標

成田空港から近い優位性を活かし、本町が誇れる資源である利根川を活用したリバーサイド・フェスティバルや歴史的な観光資源である安食の酉市などのイベントの開催により、外国人観光客を増加させるとともに、外国人観光客の増加を観光客全体の増加への起爆剤としていく。

また、イベントの開催時に本町の特産品である黒大豆製品や米加工品、乳製品などの販売ブースを充実させる。これによって、観光客の観光消費額の増加、特に外国人観光客の観光消費額を増加させ「稼ぐ力」を高めることを目的とする。

更に、地元学生の外国語通訳ボランティア人材の育成により、イベント等に訪れる外国人観光客への「もてなし力」を高め、参加型イベントとして国内外にアピールしていく。

【数値目標】

事　業	外国人集客力アップ事業		年月
KPI	栄町を訪れる 外国人観光客の増加	栄町を訪れる外国人観光客が 購入する特産品の購買額の増加	
申請時	6,183 人	2,000 千円	H28.3
初年度	8,000 人	8,000 千円	H29.3
２年目	10,000 人	10,000 千円	H30.3
３年目	12,000 人	12,000 千円	H31.3
４年目	15,000 人	15,000 千円	R2.3
５年目	10,000 人	10,000 千円	R3.3
６年目	12,000 人	12,000 千円	R4.3
７年目	14,000 人	14,000 千円	R5.3
８年目	16,000 人	16,000 千円	R6.3
９年目	18,000 人	18,000 千円	R7.3

５　地域再生を図るために行う事業

５－１　全体の概要

５－２（３）に記載

５－２　第５章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）:【Ａ２００７】

（１）　事業名：外国人に愛される観光立町「栄町」づくりプロジェクト

（外国人集客力アップ事業：ＳＡＫＡＥリバーサイド・フェスティバル事業、安食の酉市事業、イルミネーション事業、相撲イベントによる集客事業、外国人イベント集客ツアー、コスプレの館運営事業）

（２）　事業区分：観光業の振興

（３）　事業の目的・内容

（目的）

栄町は、成田空港から車で約 20 分の距離にあり、外国人旅行者が再訪日したい施設県内ベスト３に挙げられている「千葉県立房総のむら」がある。また、利根川をはじめとする豊かな水辺環境や先人から受け継ぐ歴史や伝統文化など外国人にも誇れる貴重な資源を擁している。

加えて、本町の特産品であるどら黒豆（黒大豆）を使った生カステラ、ソフトクリーム、味噌、きな粉、甘納豆などの加工品とともに米や乳製品の加工品なども開発・商品化され、日本人観光客だけでなく、ドラムの里レストランで販売するソフトクリームや成田空港第３ターミナル内の春秋航空ショップで販売する黒豆製品や揚げおかきなどが外国人観光客からも好評を得ている。

一方､外国人観光客が当町の施設やイベント等に訪れた際に通訳人材が確保されていないため、外国人観光客を増加させる環境が整備されていない。

また、成田空港を利用する外国人旅行者は、第３ターミナルの開設やＬＣＣの新規就航路線の開業などにより年々増加している一方､当町を訪れる外国人観光客は､平成 25 年から平成 27 年までは横ばいであったが、平成 27 年にコスプレの館がオープンした他、外国人観光客の誘客事業の取組みにより、平成 28 年から増加傾向となっているが､房総のむら周辺のみの滞在に留まり、町内の飲食店や商店街への周遊ルートが確立されておらず､経済波及効果が低い状況であることから､成田空港から近いことや外国人にも誇れる資源や環境の優位性を活かしきれていない｡また､当町の特産品である黒大豆を使った加工品などの地場産品の販売額については､地域住民の購買額は増加傾向にあるが､観光客などの購買については伸び悩んでいる。更に、外国人観光客が訪れる際に、施設の案内やイベントにおけるおもてなしができる外国語の通訳ボランティアが不足しており､外国人観光客を集客できる環境が整備されていない。

そこで、成田空港から近い優位性を活かし、2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックによる外国人観光客を本町に呼び込み、地域経済の活性化を図る契機として捉え、本町が誇れる資源を活用したイベントの開催により、成田市に拠点を置くツアー会社㈱ＰＥＪ、成田空港周辺のホテル等の協力により、バスツ

アーを企画し、外国人観光客を増加させるとともに、外国人観光客の増加を観光客全体の増加への起爆剤としていく。また、イベントの開催時に本町の特産品である黒大豆製品や米加工品、乳製品などの販売ブースを充実させる。これによって、観光客の観光消費額の増加、特に外国人観光客の観光消費額を増加させ「稼ぐ力」を高める。さらに、地元学生の外国語通訳ボランティア人材の育成や本町独自の取り組みである「まちづくり大学外国人おもてなし学部」の卒業生により、イベント等に訪れる外国人観光客への「もてなし力」を高め、参加型イベントとして国内外にアピールしていくことを目的とする。

（事業の内容）

・外国人集客力アップ事業①　【外国人観光客にも親しまれるイベントの開催】

（１）ＳＡＫＡＥリバーサイド・フェスティバルによる集客

利根川河川敷を会場に開催されるＳＡＫＡＥリバーサイド・フェスティバルは、マリンジェット体験やダンス大会、また、外国人にも魅力のある花火大会などで構成されており、特に外国人をはじめ多くの観光客が参加できるイベントとして、観光客を増加させる。また、成田空港に近い地の利を活かし、外国人旅行者のジャパンツアーの一部として取り込めるよう、成田市に拠点を置くツアー会社㈱ＰＥＪの協力により、バスツアーを企画し、トランジット外国人観光客を誘客し、学生観光通訳ボランティアによるイベント会場での案内などを行う。更に、会場内に特産品の黒大豆製品をはじめ、米や乳製品の加工品など、地場産品の販売ブースを充実し、観光客及び外国人観光客による町の特産品の購買を促進する。

なお、このフェスティバルは、年に一度のイベントではあるが、本町最大のイベントであり、訪れた方々には本町の様々な魅力を発信する場となっている。これにより、年間を通じて本町を訪れるリピーターの確保につなげるものである。

（２）安食の酉の市による集客

関東地方で最も遅い時期に開催される安食の酉の市は、江戸時代中期から行われている歴史ある祭事として、「大鷲神社」周辺を会場に開催されており、町内外から多くの来場者が訪れるが、近年では外国人観光客の姿も見られるようになった。そこで、成田空港に近い地の利を活かし、成田市に拠点を置くツアー会社㈱ＰＥＪの協力によりバスツアーを企画し、トランジット外国人観光客を誘客し、学生観光通訳ボランティアによるイベント会場での案内などを行う。特に外国人など観光客が山車を曳いたり、太鼓を叩くなどの日本の伝統文化に触れられるイベントにしていく。

また、会場内に特産品の黒大豆製品をはじめ、米や乳製品の加工品など、地場産品の販売ブースを充実し、観光客及び外国人観光客による町の特産品の購買を促進する。

（３）イルミネーション事業

外国人観光客は昼間だけの滞在に留まっており、夜間においては外国人観光客を町内でほとんど見かけない状況である。

そこで、安食駅周辺において、駅周辺の活性化及び夜間においてのまちの魅力づくりのためにイルミネーションの装飾を行っており、近年では町内の住民だけでなく、近隣からも写真を撮影に訪れ、盛り上がりが増してきている。

その中で、企業版ふるさと納税を活用することによって、イルミネーションが充実し、町の更なるイメージアップにつながり、若者世代の転入者の増加が図られる。また、外国人観光客を呼び込むために、成田空港周辺のホテルと連携し、イルミネーションの宣伝をし、イルミネーションを見に訪れる外国人観光客の増加を図る取組を新たに行う。そして、安食駅にはグルメマップが掲示してあり、当町の飲食店がどこにあるか見ることができ、イルミネーションを見に訪れた外国人観光客を町内の飲食店へ誘導する流れをつくることで、地場産品の消費額が上がり、地元経済の活性化を図る。

（４）相撲イベントによる集客事業

成田空港からの近接性を活かし、外国人にも「スモウレスラー」として人気が高い、日本の国技である「相撲」に着目し、町の資源として、栄町出身の力士を擁する「千賀ノ浦部屋」が現在、夏合宿の実施や町内イベントに参加し、町民との交流を図っている。

町内イベントとしては、訪れる外国人観光客に対し、「力士も参加する子ども相撲大会」「力士も参加する豆まき大会」といった「日本の相撲」を体験できるイベントを行っている。

その中で、外国人観光客のイベントへの参加者数は、平成 29 年度は、21 人であったが、令和元年度は 75 人と年々外国人観光客のイベントへの参加者数が増加してきている。そこで、企業版ふるさと納税を活用することで、各イベントで問題となっているスタッフ不足の解消、テントなどの備品の充実化を図ることができ、イベントの参加者が増加してきても対応できるイベントづくりが可能となる。そして、栄町総合戦略で掲げた「成田空港に近い利点を活かした多くの観光客が訪れるまちづくり」が推進され、外国人観光客の増加が図られる。

さらに、町の特産品の販売強化や相撲関連グッズの販売などにより、特産品の購買額を増加させ、地域経済の活性化を図る。

・外国人集客力アップ事業②【外国人町内イベント集客ツアー】

当町では、１年を通じて、様々なイベントを行っている。しかし、当町を訪れる外国人観光客は、房総のむら・コスプレの館周辺がほとんどとなっており、町のイベントを訪れる外国人が少なく、町の飲食店や商店街への経済波及効果が低い状況である。

そのため、成田空港周辺のホテル等と連携し、町のイベントを訪れるだけに留まらず、町内の飲食店を訪れて、町の特産物も味わってもらうツアーを企画し、町のイベントへ訪れる外国人の増加及び観光消費額の増加へと繋げ、地元商業の活性化を図る。

・外国人集客力アップ事業③　【コスプレの館運営事業】

当町では、近年、海外でもブームとなっているコスプレに注目し、平成 27 年 11 月、町の観光拠点ドラムの里内に「コスプレの館」をオープンした。また、平成 28 年度から毎年コスプレ大会というイベントを開催している。

コスプレの館では、和装コスプレを中心としたレンタル、着付け等を行っており、コスプレに着替えた利用者は、隣接する県立房総のむらの江戸の町並みの散策が出来るため、外国人観光客から人気が高い。

利用者数についてはオープン当時 70 人/月だったものが、成田空港におけるＰＲ活動や新聞・テレビなどのマスコミに取り上げられたこと、また、コスプレの館を利用した外国人観光客がＳＮＳでコスプレの写真を掲載したことなどにより、令和元年度では 240 人/月を超えており、外国人観光客が団体で訪れる等、年々利用者が増加している。

そこで、成田空港から近い地の利を活かし、日本人観光客をはじめ、トランジット外国人旅行者を通年コスプレの館及び県立房総のむらに呼び込むため、「トランジット旅客の訪日観光促進協議会」が主催する成田空港トランジットプログラムにおけるツアー商品として「和装コスプレ体験」を商品として提供し、４時間以上の乗り継ぎ時間を要している約 70 万人/年のトランジット客をターゲットに外国人観光客を増加させる。また、外国人利用者に対する通訳不足が課題となっているため、学生観光通訳ボランティアの活用により多くの外国人観光客が和装に着替える際のアシスト環境を整える。

更に、コスプレの館と同じ敷地にあるドラムの里レストランや地場産品を販売する物産館で黒大豆などの特産品の加工品等の購買を促進し、観光消費額の増加を図る。

→各年度の事業の内容

外国人集客力アップ事業①　【外国人観光客にも親しまれるイベントの開催】

初年度）川に囲まれた町の特徴を活かした、ＳＡＫＡＥリバーサイド・フェスティバルや本町の歴史的な観光資源である安食の酉市のイベントを成田空港でのＰＲや成田市に拠点を置くツアー会社㈱ＰＥＪの協力により、広くＰＲし、外国人観光客を誘客する。

イベント会場内に特産品販売ブースを設置し、外国人観光客専用の特産品に関するチラシを作成し外国人観光客の購買を促進させる。

併せて、訪れた外国人観光客をもてなすため学生観光通訳ボランティアを育成する。

２年目）外国人観光客の更なる集客を図るため、前年度の実績を踏まえ、以下の取組みを行う。

〇ＳＡＫＡＥリバーサイド・フェスティバルでは、外国人観光客向けに花火大会の桟敷席を設けるなど、外国人観光客向けのイベントを増加させる。

〇安食の酉市では、大鷲神社のご神体を山車に乗せて練り歩く曳廻しやお囃子太鼓を叩くイベントに外国人観光客を参加させ、外国人観光客が「見るイベント」から「参加するイベント」に発展させる。

〇イベント会場内に設置する特産品販売ブースでの外国人観光客の購買を

促進させる。
〇学生観光通訳ボランティアによるイベント案内等により外国人観光客をもてなす。

３年目）外国人観光客の更なる集客を図るため、前年度の実績を踏まえ、継続して外国人観光客が参加できるイベントを開催する。
イベント内に設置する特産品販売ブースでの外国人観光客の購買を促進すると共に、学生観光通訳ボランティアによるイベント案内により外国人観光客をもてなす。

４年目）外国人観光客の更なる集客を図るため、前年度の実績を踏まえ、継続して外国人観光客が参加できるイベントを開催する。
イベント内に設置する特産品販売ブースでの外国人観光客の購買を促進すると共に、学生観光通訳ボランティアによるイベント案内により外国人観光客をもてなす。

外国人集客力アップ事業②　【コスプレの館運営事業】

初年度）外国人観光客に人気のあるコスプレの館を活用し、「トランジット旅客の訪日観光促進協議会」が主催する成田空港トランジットプログラムにおけるツアー商品として「和装コスプレ体験」を商品として提供する。
外国人観光客をコスプレの館に呼び込むことにより、同敷地内に立地するレストランや物産館で販売する地場産品について外国人観光客の購買を促進させる。
また、コスプレに着替えた外国人観光客がイベントに参加できるよう学生観光通訳ボランティアを活用する。

２年目）前年度の実績を踏まえ、外国人観光客のニーズを取り入れながら、継続してコスプレの館を訪れる外国人観光客を増加させるとともに、コスプレに扮した外国人観光客をＳＡＫＡＥリバーサイド･フェスティバルや安食の酉市に参加させるなどイベントとのタイアップにより効果を高めるため、町所有の大型バスにより、イベント会場に送迎する。
同敷地内に立地するレストランや物産館で販売する地場産品について外国人観光客の購買を促進させる。
コスプレに着替えた外国人観光客がイベントに参加できるよう学生観光通訳ボランティアを活用する。

３年目）前年度の実績を踏まえ、外国人観光客のニーズを取り入れながら、コスプレの館を訪れる外国人観光客を増加させるとともに、コスプレとイベントのタイアップ事業を継続し、外国人観光客を増加させる。
同敷地内に立地するレストランや物産館で販売する地場産品について外国人観光客の購買を促進させる。
コスプレに着替えた外国人観光客がイベントに参加できるよう学生観光通訳ボランティアを活用する。

４年目）前年度の実績を踏まえ、外国人観光客のニーズを取り入れながら、コスプレの館を訪れる外国人観光客を増加させるとともに、コスプレとイベントのタイアップ事業を継続し、外国人観光客を増加させる。
同敷地内に立地するレストランや物産館で販売する地場産品について外国人観光客の購買を促進させる。
コスプレに着替えた外国人観光客がイベントに参加できるよう学生観光通訳ボランティアを活用する。

（４）地方版総合戦略における位置付け

当町のまち・ひと・しごと総合戦略における、戦略Ｉの基本目標として「成田空港に近いことから多くの外国人観光客が日本を体験できる栄町づくり」を定めている。

当該事業は、総合戦略で掲げた目標達成に不可欠な事業であり、ＫＰＩとしては次の三点を設定している。

①外国人観光客の増加
H27 年度：6,183 人　⇒　H31 年度：15,000 人（8,817 人増）

②外国人観光客の購買額の増加
H27 年度：2,000 千円　⇒　H31 年度：15,000 千円（13,000 千円増）

③学生観光通訳ボランティアの人数
H27 年度：0 人　⇒　H31 年度：40 人（毎年 10 人増）

また、

また、当町の次期まち・ひと・しごと総合戦略における、戦略２及び戦略３の基本目標として「地域の特性を生かし、産業が活性化した栄町をつくる」「若者をはじめ誰もが住みやすい栄町をつくる」を定めており、当該事業は、総合戦略で掲げた目標達成に不可欠な事業である。

（５）　事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

【数値目標】

事　業	外国人集客力アップ事業		年月
KPI	栄町を訪れる 外国人観光客の増加	栄町を訪れる外国人観光客が 購入する特産品の購買額の増加	
申請時	6,183 人	2,000 千円	H28.3
初年度	8,000 人	8,000 千円	H29.3
２年目	10,000 人	10,000 千円	H30.3
３年目	12,000 人	12,000 千円	H31.3
４年目	15,000 人	15,000 千円	R2.3
５年目	10,000 人	10,000 千円	R3.3
６年目	12,000 人	12,000 千円	R4.3

７年目	14,000 人	14,000 千円	R5.3
８年目	16,000 人	16,000 千円	R6.3
９年目	18,000 人	18,000 千円	R7.3

（６）・（７）記載不要

（６）　事業費　※2019 年度まで

（単位：千円）

ＳＡＫＡＥリバーサイド・フェスティバル事業	年度	H28	H29	H30	H31
	事業費計	6,100	6,500	6,500	7,000
区分	補助金	6,100	6,500	6,500	7,000

安食の酉市事業	年度	H28	H29	H30	H31
	事業費計	500	700	700	700
区分	補助金	500	700	700	700

コスプレの館運営事業	年度	H28	H29	H30	H31
	事業費計	1,650	2,000	2,000	2,500
区分	補助金	1,650	2,000	2,000	2,500

（７）寄附の見込額　※2019 年度まで

（単位：千円）

SAKAE リバーサイド・フェスティバル事業	年度	H28	H29	H30	H31
	事業費計	6,100	6,500	6,500	7,000
	寄附額計	2,000	2,000	2,000	2,000
寄附法人	食品製造業者	2,000	2,000	2,000	2,000

（単位：千円）

安食の酉市事業	年度	H28	H29	H30	H31
	事業費計	500	700	700	700
	寄附額計	300	500	500	500
寄附法人	空港関連会社	300	500	500	500

（単位：千円）

	年度	H28	H29	H30	H31
コスプレの館運営事業	事業費計	1,650	2,000	2,000	2,500
	寄附額計	300	500	500	1,000
寄附法人	空港関連会社	300	500	500	1,000

（８）事業の評価の方法（PDCA サイクル）

（評価の手法）

事業の KPI である観光客の内､外国人観光客の増加及び外国人観光客が購入する特産品の購買額の実績値を公表する。また、当町の総合戦略会議により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良する。

（評価の時期・内容）

毎年度６月を目途に外部有識者（総合戦略会議）による効果検証を行い、以降の取り組み方針を決定する。

（公表の方法）

目標の達成状況については、検証後速やかに栄町ホームページ上で公表する。

（９）事業期間

平成 28 年９月～令和７年３月

(10)寄附の金額の目安

50,000 千円(2020 年度～2024 年度累計)

５－３　その他の事業

５－３－１　地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

５－３－２　支援措置によらない独自の取組

〇学生観光通訳ボランティア育成事業

事業概要：外国人観光客に対する「もてなし力」を高め、コスプレの館や県立房総のむらに訪れる外国人観光客や外国人にも親しまれるイベントに参加する外国人観光客に対し､ツアーガイドと同行して施設等の説明やイベントでの案内通訳として活躍できるよう、町内の中学校３年をメインに当面、英語力の向上を図るため、学生観光通訳ボランティア育成事業を実施する。

具体的には、外国人とのコミュニケーション能力を向上させ、外国人観光客をもてなす学生観光通訳ボランティアとして育成するため、外国語の臨時講師を招聘し、通訳ボランティアを志す学生に対する特別研修として、成田空港との連携により成田空港内で実際に外国人旅行者との会話による外国人とのコミュニケーション能力と英語力を向上させるとともに、町内の施設やイベント等について学ぶ研修会を通じて、学生観光通訳ボランティアとして育成する。
これにより、本計画で実施する事業への効果が高まり、地域の課題及び目標に貢献するものである。

実施主体：栄町
事業期間：平成 27 年度～令和６年度

〇まちづくり大学「外国人おもてなし学部」事業
事業概要:従来のような公共サービスの提供だけでは対応できない様々な課題解決のために、地域や団体で活動する人材を発掘・育成し、“元気な栄町”を支える人づくりを進めることを目的に”まちづくり大学”を開校した。
その中で、栄町を訪れる外国人に、町の魅力や日本の伝統文化を伝えるために必要な知識の習得と、おもてなし英会話の習得を目指す「外国人おもてなし学部」を開校した。
これにより、本計画で実施する事業への効果が高まり、地域の課題及び目標に貢献するものである。

実施主体：栄町
事業期間：令和元年度～令和６年度

６　計画期間
地域再生計画の認定の日から令和７年３月 31 日まで

７　目標の達成状況に係る評価に関する事項
７－１　目標の達成状況にかかる評価の手法
事業の KPI である観光客の内､外国人観光客の増加及び外国人観光客が購入する特産品の購買額並びに学生観光通訳ボランティア数・まちづくり大学「外国人おもてなし学部」の生徒数について、実績値を公表する。また、当町の総合戦略会議により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良する。

７－２　目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容
毎年度 6 月を目途に外部有識者（総合戦略会議）による効果検証を行い、以降の取り組み

方針を決定する。

７－３　目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに栄町ホームページ上で公表する。